７・田舎のおばさんの人情

土砂降りの雨

　ざぁ～と降り注ぐチャクテ雨は蒸し暑さを忽ち涼しくしてくれる。一直線に太く降り注ぐ雨は、前の家の屋上から雨水が溢れ、太い雨粒の跡が無数の円を描く。
　チャクテ雨はチャクテギ（叉木）雨というのが正しい言葉だが、長くて分厚いことを叉木のようだといって使われる言葉だ。だが言葉を易しくするため、「ギ」の字を省略するようになった。そして方言になったのだ。今月は月末まで全国に雨が沢山降るとのことで、暑さが消えるようだ。
　今年の夏は特別に暑かったので雨不足のようだ。そしてだんだんと年を取るにつれ生きるのに骨が折れるようになって行くようだ。体力が減退して行くせいだ。春雨のような細雨には心が弱くなって、情緒が深くなる。チャクテ雨では強い心になり、気持ちまで涼しい気分になり活動的になって行く。台風が近くで停滞しているそうだ。その台風ほどの昔のサラ号が思い出され、言葉だけ聞いても亀の首のように首が縮む。なるようになれと思った途端に大きくなる。チャクテ雨は止んだ。日光がかすかに東の空から広がる。今日は久し振りに外出しなくてはならないが、雨が上がったので考えて見よう。今日の日課は余りにも多い。だがどの程度堪えられるかな……。

妄想

　空想が深まり精神がぼんやりすると妄想になる。実現出来ることを考えなくてはならない。実現出来ないことが明らかなことを、ただ望みながら時間を潰

していることがよくある。歌にもある『もしも百万ウォンがあったなら……』と歌う内容が妄想だ。世の中を生きて行きながらこんなことを考える人が余りにも多く見受けられる。そうこうするうちに上手く行かないと、詐欺をしたり泥棒をする。そして人を殺す。その妄想を実現させるためには手段方法を選ばない。髪が黒い人は若い人で、白い人は年寄りだ。

ところで年寄りでも髪が黒い人がいる。髪を染めることは知っているが、全く染めたことがないという。どんなに福福しいことか……ところで若い人も髪が黄や赤の人が多くなった。色とりどりに染めることが出来るようだ。だが白い色に染めたのは見たことがない。若い人が白い色に、流行の染め方をしたら、私はそのままで格好のいい若者になれるのではないかと思ってみる。そんな空想をしていたからか、私は昨夜夢を見た。私の髪が黒くなったが、これはどうしたことか……？と嬉しかった。老人が急に若者になったので良いことばかりだ……眠りから覚めてみると夢なので落ち込んでしまう。夢だから目が覚めるのは当然のことなので落ち込むことはないけれど、これが妄想になって行くと、欲が憤懣に変わる。

米国に移民した人が帰ってきたので会った。米国は髪の色が千差万別で、若い人も白いのがいるといった。年寄りか若者かの判断は皮膚で見るのだと言っていた。それなら私が米国に行けば５０歳くらいに見えるかな？と妄想している。

雀の木

車道の縁には街路樹が両側に立っていて、樹に沿って電柱がまばらに立てられている。そして車は速力を上げながら走っている。暫くの間、家から下りて来て歩いているが、鳥の声が喧しい。樹の中に数百羽に及ぶ雀がチュンチュンと鳴き立て、数十羽づつ交代で飛ぶ奴、電柱に上がってから空に飛んでいく奴……。

６時だとまだ明るくなくて、夜が随分長くなり秋の気候に変わる今朝、私はジャンパーを着て道に出たが、雀の樹に出会い暫くの間振り返ってみた。あんなに沢山の街路樹の中の一本の樹だけが雀の木になったのは不思議なことだ……と、その理由が分からず暫くの間考えながら歩いて行った。ひょっとして樹の葉の中には雀が食べるほどの大量の虫がいるのではと思い一人で考えてみた。聖堂でミサを終え、帰りがけに同行人と別の裏道を通ったが、よく分からないので心配だ。

秋風が耳元を掠め、爽やかな朝を味わう。今日は静かで楽な一日を送ろうと思ったが果たして～。昨日はソウルから上の娘が来るというので金海飛行場へ行き、車に乗せて帰る途中で、東亜大学病院霊安室に行き、友人の母親の霊前に立ち寄ってから帰った。上の孫娘は勤め人だからといって、秋夕に来て挨拶をすると言い封筒を取り出す。私、祖母、母、弟妹みんなに十万ウォンの小切手を一枚ずつ封筒に入れて分けてくれる。秋夕の挨拶のようだ。お前が使えば……というと、ボーナスを貰ったと言う。

今は存在しているが

私はしょっちゅうこんなことを考えている。今は私が存在しているが……と思いながらも歳月が虚妄であることを感じる。父母の墓参りをするときや祭祀を行うときは、より切実に感じる。そこで私を振り返ってみる。私がこれからどれだけ生きようと、私の存在が終わるときが来るので、そのときを想像してみる。そしてそうなる前に私はどのように生きていかなくてはならないか？と思いつつ、すべての苦しいことに当面しなくて済むようにと肝に銘じている。今までにも多くの苦しいことに当面して生きてきたが、これ以上ぶつかることは出来ない。そしてぶつからないよう、私は好まない人を遠ざけ、好まないことはしないように避けている。

私はお金というものに光を当てないようにする。猥雑なものがお金だから……人間を苦しめる人間は権力と金で食べているから……すべてのものがこのように反復されたら、これからの存在中に苦しいことが続いて反復され、目の前に見える存在期間が虚妄なものとして更に継続されることではないか！と思って、今日一日の私の存在期間を何をして縮めたのかを反省する。することがない。学ぶことがない。一つも頭に入って行かない。これが時を空しく過ごすことでなくて何なのか？

時間潰し

私はいつも時間が足りないと思っている。どんなことをしていることが多いのか、少しも休む時間がない。することとしては、家の中でも整理することが多く、外出するときには物を買うとか、友人に会って会食をすることだ。だが

急に家から出掛けなくてはならないときもある。女性達の集まりが我が家であるときには、私がいては不便だと思って、私が無理に出掛けなくてはならない。
　ところで、いざ出掛けようとすると行くところがない。４,５時間を何処を徘徊しながら時間を潰さなくてはならないのか？こんなときは手帳の名簿を取り出し、何遍も上から下までよく見る。２００名を超える友人達の名前をくまなく見ても会いたい人は一人もいない。それは、みんなが夫々それなりの生業もあり、趣味が異なり、私が嫌いな棋院で生活している人がいるが、そこで碁を見物していることも出来ず、登山に行ってしまったり、あるいは魚釣りに行ったり。さもなければ地団太を踏みながら雪の中で火を焚いたり、相手になる人がいない。いいや……ひょっとしたら私を相手にしてくれる人がいないのだ。そんなわけで私は集会や買い物に出掛けるとき、そして用事があるときを除外すると、私の部屋で文章を書いたり読んだりしている。そしてプリントしておいたものを本に綴じている。こんなことを私は楽しい趣味として過ごしている。こんなことが毎日のプランだ。
ところで今日は、朝飯を食べながら突然私を追放する宣言がされる。女房と娘の共同宣言だ。聖堂で毎月１回ずつ実施する小さな集会のグループが、キムチ漬けを１か月分作って、車に載せて不運な少年院に持って行っているが、その奉仕グループが我が家で作業をする日だと言う。白菜、大根の購入、薬味など全部を会員数人が財布をはたいて、作って持って行ってやる。この奉仕グループは本当に尊敬に値する。私は同感して、何時間かの追放が問題であろうか？
　コンピューターの勉強に熱を上げている我々幾人かは、しょっちゅう会っている。結局はその一人である某氏に電話をし、今日の昼は刺身を食べに行こうと誘いを掛けた。ところが、今日は聖堂で敬老の宴があるというので、そこで会いましょうという。それはいいことだな。聖堂の講堂での腹一杯の宴会は超満員だった。私が時間にちょっと遅れたので特別待遇だ。食事に焼酎一杯やっていると、マイクを掴んで壇上から歌を歌うのだが、名歌手に劣らない実力だった。それから長鼓に民謡の非常に楽しい時間だ。老妓生５名が招かれて陽気な楽しい時間を過ごした。３時過ぎにならなければ家に帰るまいと予め決めて出て来たのだが、まだ２時にしかなっていない。某氏が自動車で家に送ろうというのを、東三洞の方へ行こうと言った。そこは時間潰しのためだ。そこで電気治療をする所に行こうというと、時間潰しならそれが良かろうということになった。こうして腰の治療をするためにそこへ入って行った。一石二鳥だ。此処も超満員だ。３０分間待って我々の順番が来て、４０分間の施術を受けて帰って来た。これからは時間潰しに一番良いあそこにいこう。

夢の中で昔が再生されて

　眠りから覚めて時計を見ると３時だ。余り爽やかではない夢が思い出され、夢を整理して見ると、ソウルの漢江の岸辺にアパートが建っているが、なぜかその裏道を私が通り過ぎている。ところで、立って歩いているのではなく、やっと人が通るのも難しいほど狭い道で、鼠穴ほどの穴に這って入り、抜け出してみると、奥深い丘の裾には下水のような水が流れ目まいがするほどだ。
　夢にも出てきたが、昔登山をして滑り落ち、若しかしたら死ぬかもしれないところをやっと生きていたことを思い出したが、夢ではどうして出てきたのかテントに出て来た。テントでは犬を何匹か売っていた。その横には麦、大豆のようなものも売っていて田舎の市日のような風景だ。ある中年のみすぼらしい人が私の横でじろじろ見回しながら言葉を掛ける。私は警戒しながら避けようとした。しかし遠ざかろうとすると、もっと近付いて来て話をしようとする。私は便所ででも私の気に入らない人とは近くで用を足さない。そこで、もう一人の若者がやはりみすぼらしい身なりで加勢する。私はもっと人から遠ざかりながら、私は急ぎの用があるので行かなくてはならないと言って、その場を避ける。ところで、今度はある商人の女性が大豆を買えという。おばさん、数日前も私が一升も買ったではないか、と言いながら通り過ぎると、ああそうだったね、という。こんな雑然とした夢を見たが、今日の運勢も大したことはないなと思って、今日の招待の席に行こうか行くまいかと迷ったが、それしきの夢を問題にせず行ってみようと思う。逓友会から、会長が今日招請するとの通知が来ている。

田舎のおばさんの人情

　全羅道海南には私の祖先の墓がある。山だから、海南からも１時間は更に入っていかなくてはならない所だ。光州に住んでいる弟の長男がソウルから下ってきて、下の息子は光州の歯科医院を休むようで、看護婦に任せて参加した。こうして５名が下の息子の車に乗って、都山所（大墓）に集まり、私の家族は、息子達が参加不能で、娘と孫娘、女房達４名が釜山から娘の車に乗って都山所に集まった。
　今年は毎年伐草をしてくれていた人が交通事故で死んだので、私の八代祖父母の墓は草が生え、首に達するまで成長している。みんなで、鎌を持った人が

４名、鋏を持った人が２名だ。その他には鋸を持って切るのが私だが自信がない。後悔した。それで、伐草機を買って来なくてはならなかったのだが、ソウルでキラリ、江原道でピカリと過ごしたので、伐草機を買う機会がなかったということだ。掲示板を読んでみる機会もなかったのだ。仕方なく墓の部分だけ伐草したしたのだが、４時間熱心にやって、そのまま止めて、更に３里ほど離れた花源に行かなくてはならなかった。

花源にはまた墓がある。そこは山守がいて、土地で稼いで生活しており、伐草はよくやってくれている。都山所といえば私の一番上の祖父である八代祖父母だ。李朝時に官位正３品で墓も一番大きい。周囲が１,８００坪だが、墓を見てくれる人が田にしているので、墓は５００坪程度だ。そこは蓬の生い茂った荒地になっているので、明年には伐草機でちょきんちょきん刈ってしまわなくては……と思って、珍島大橋を通って珍島犬の売り場を見物し、「ウルドゥンポン」見物もしたが、海がまだぐるぐる回っていて、またウルドゥンポンの神奇さも、すべてが自然の現象から生じたものだと思いながら、右水営の地で自動車２台が停車し、兄弟が別れを告げ、また明年会おう……と挨拶した。

釜山へと帰りながら何か食べるものを、毎年と同じく買って帰ろうと道路を走る。行く時に見た栗薩摩芋は海南産が有名なので、そこを通る途中に買おうと立ち寄ってみると、おばあさんがボール箱１つで１万ウォンだといって車に載せた。南瓜も買おうと思ったが、品物が良くないとためらっていると、一人のおばさんが南瓜を買うんだったら私に付いておいでという。幾らも行かずに農家に来たが、南瓜の立派なものが沢山あった。

そこで思い通りに選び３個買ったが、１つが 4,000 ウォンで 12,000 ウォンだ。釜山だったら１つで 8,000 ウォンするものだと女房が言う。それだけでなく、小さいのを１つおまけでくれた。そして鈴なりに生っている、ナムルにして食べる拳くらいの大きさの南瓜を２個サービスする。娘が、だめよ、釜山では１つで 3,000 ウォンするよと言う。それを２個もくれると言うが、農村で苦労して育てた南瓜を只で貰ってはいけないと、1,000 ウォン上げると、受け取ろうとしないので、無理矢理に上げると、もう３個摘んでくれる。相済まないのでもう 1,000 ウォン余計に上げると、付いて歩き回りながら、もっと摘んで上げる、もっと摘んで上げると言って、本当にそのおばさんは気分屋だったな。結局、家に帰って数えてみると、2,000 ウォン上げて１０個の南瓜を貰って帰ったので買い得だった。釜山だったら 20,000 ウォン分になるのだ～～こうして順天に立ち寄った。甥達が住んでいて、「からし菜」「味噌玉麹用の大豆」「胡麻」色々なおかずの材料を買って来ていた。釜山で買うものとは半分の値段だ。私はその弾みに懐を全部はたいた。無慮２０万ウォンなら私の懐がどんなに重かっただろうか！これを作って、何処に上げて、此処に上げて、と考えて夜が明ける。

無線呼び鈴に取り替えて

２５年前に古い家を壊して家を新築するとき、大門でボタンを押して騒々しい呼び鈴の音がすれば、１階からでも２階からでも、大門まで出て行かなくてもボタン一つで開けられるよう作っておいた。ところで何年かたった後で、安全公社から点検に来て、メータースイッチの蓋の扉に赤札が貼られ、その札には何日までに電気工事業者が直すよう指示文が書いてあった。初めてのことなので心配して、直ぐに国際市場に行き、前に職場に出入りしていた顔見知りに社長に依頼した。すると翌日２人の技術者を差し向けて来た。

この技術者は３０分にもならないうちに、全部直したと言う。当時の金で１０万ウォン出せと言う。途方もなく高い金額だ。今の金で見積もると３０万ウォンになるようだ。何処が故障だったのかと聞くと、地中を通って大門に配線されていたのがショートしていたと言うことだ。それで簡単に、地中に埋められている電線を切ってしまったと言う。そんなに簡単に終わったのに何でそんなに高いのかと聞くと、「人件費が１日３万ウォンで、２人分だから６万ウォン、電線などを出庫すると金を貰わなくては……」

それで社長に電話を掛けて調べてみると、全く同じことを以北方言ではっきりと言う。私は心の中で、顔見知りの人からは物を買うとか仕事を任せることはしないことにし、１０万ウォンを払って技術者を帰した。その後は大門を自動で開閉することは考えず、ベルの音がしたら、誰だと大きな声で尋ねてみて、大門まで出て行って門を開けてやる不便さを甘受して過ごしている。

ところで電灯線でなく、３Ｖの電池を使ったベルを使用しているので、ベルの音が小さくて不便なことが何回も起きる。２階の部屋でテレビを見るとか、客と話をしているとベルの音が聞こえない。それで国際市場に行き 5,000 ウォン払って電池式を買ってきて、古いものを捨て付け替えたが、やはり音が小さい。一度買って来たものを返すことも出来ず、昨日もう一度国際市場を歩き回って調べた。『音が大きいものを』と言うと、電気式だけではないと言う。電気式でやろうとすると電線を複雑に配線しなくてはならない。「それなら無線でやって御覧なさい」と言うので、どのようにするのか聞くと、物を見せてくれる。その代わり、１階に１個、２階に１個掛けておき、大門にはこれを取り付けてください。そして線を引かず、無線だから押せば音が出ると言うので、１組を２万２千ウォン払って買って帰った。

家に帰ってすぐさま大門にベルを取り付け、１階の部屋と居間にそれぞれ、ここあそことねじ釘をねじ込んだり外したりしながら歩いてみた。２階もやはり私の部屋と階段の上にねじ釘を打ったり抜いたり、手に余る試験をして見る。下の階と２階のベルが一時になるので音がうんと大きくなった。私の考えでは、それでも音が小さいと言えば、もう一揃い買って３個、４個が鳴ればその時は家の中でベルの音が振動するのではないか……。

こんな妄想をしながら明け方の道を歩いている

06:30 の早朝ミサに行きながら、私はこんな妄想をしながら歩いている。私が死んで土に埋められても、このように夜明けが来るとミサにも出掛け、私が行きたいところを歩き回れたらどんなに良かろうか……！そうすれば、人は私が見えないので何も分からないだろう！だが私が生きていたときと同じく、何の不便もなく、死んでも生きているのだ……それならどんなに良いだろうか！それなら私は、私が前の世で世話になった人を助けて上げ、私を辱めた人を滅ぼす能力を持つだろう！そうすれば、その時は私の世の中だろう！明け方の風が冷たい。もう冬のようだ……？こんなことを考えて聖堂前に到着し、私の精神を振り返った。愚かな考え……馬鹿みたいな考え……これが妄想なのだ。

迷信が人の心を眩惑させる

私一人で絵を送る練習をしようと、コンピューターで友人達に笑わせるメールを送っていると、3300 番の電話のベルが鳴る。私宛に来る電話は 0777 に来るから私の電話でないことは分かった。それは、0777 は私の机の上の電話機なので私にだけ来る電話なのだ。だが 3300 は部屋ごとに受けられる電話なので、私も鏡台の上まで立ち上がって行かなくてはならない。電話のベルが数回鳴ったので、私は仕方なく立ち上がり電話を取った。意外にも男の声で、朴容兌さんですか？と言う。主に 3300 番は娘に多く掛かってくる電話で、私に掛かってくる電話と言えば久し振りに掛けてくる人なのだ、と思いながら「私が朴容兌でございます」と言うと、「鄭○○と言う人をご存知ですか？」「はい、よく知っています」と言うと、「私の叔父なのですが……母が亡くなりました」と言うので、今日、喪家に行ってみなくてはならないと思った。それから、一寸お待ち

ください、と言って、鄭○○が今にも泣き出しそうな声で電話を替わった。母親が亡くなりました、と言って悲しむ。私は年が６６歳にもなる人が泣きながら電話するとは……！と思いながら、ご母堂は何時お亡くなりになり、何歳でしたか……？と聞くと、今日亡くなって８５歳だと言う。分かりました、私が行きます、と言って電話を切った。

私は一人で家にいながら封筒に賻儀金（香典）を入れ、「賻儀」と書き、行を変えて、「謹表弔意」と書き、「私の名前」を書き入れ、女房に携帯電話で早く帰って来いと電話した。ところが意外にも喪家に行くなと言う電話がまた掛かって来た。女房が興奮して、１５日に祭祀があり、孫娘の大手術が１３日なのに、そんな所に行くと大変なことになるという電話だ。こいつめが……そんな迷信を信じて何を言うか……と言うと、更に興奮して、そんなことくらい弁えなさい、と言うことだ。孫娘の命が行きつ戻りつしているので、万一どうかなったらどうする積りか……その言葉を聞くと私の気持ちも弱くなり、「行かないことに決めた」。仕方なく、崔○○と一緒に行かなくてはならないが、私が一旦教育場に行って４時に落ち合って、タクシーで行こうと約束した。教育場から出掛け地下鉄で東莱へ行き、崔○○と一緒に病院の霊安所には入って行かず、外で待っていた。亡くなった初日なので、私は長いこと待ち、暗くなって東莱に来て、某食堂で夕食を食べ酒も飲みながら心の疲れを振り払った。迷信と言うものはこんなに強敵なのだと言うことを今更のように感じた。

静かな夜に

眠りから覚めてみると１時だ。色々と根のない考えで頭がくらくらしてる。寝ていてくらくらする頭は冷ますことが出来ない。ぽんと立ち上がる。絵が逃げてしまったことから調べてみよう。アウトルックを開いた。送って失くなった絵が、生きて届いていた。不思議だ。

だが、２枚以上は行かないというので１枚だけ送ったのだ。昨日は１枚も行かなかったので直しておいたのだが、やった……！ともう一度眠った。４時に再び起き上がった。ひっきりなしにhitelから英語で、IDが違うとメールが来ている。直して送ってもしょっちゅう浮かび上がる。どうしてか……こんなにも面倒ならやらない……送らないのなら止めよう……ひっきりなしにトラブルだ……と言いながら、眠ろうとしても眠れない。タンウさんに上げる動画を複写する。私は楽しい顔を見るのが好きだ。私の前に現れる人がぱあっと笑った顔で近付いてくれば、私の気持ちがぱあっと開けてくる。そんな楽しさだ。今

日も万事が上手く行き、みんなが情愛深く過ごすことが楽しいのだ。誰だろうが、軽々しく振舞い自分が偉いと思って人を無視する人間が目の前に現れたら、絶対に打ち壊してしまいたい。

７時だ。女房が朝飲む薬のどんぶりを持って上がってくる。私はとても苦い薬は飲みたくない。だが飲まなければいけないそうだ。黒い薬の水を何日間か飲んで、腸の中まで真っ黒だ。朝の日差しが明るくなってくる。静かな夜は明るくなった。今日も騒々しい一日が続くのだ。明日のために熱心に学ぼう。

庭には野菊の花が満開だな

庭に咲いていた花花がみんな落ちて、拳くらいの大きさの黄色い花一輪が身じろぎもせず寂しげに咲いていたが、今朝は気温が下がり、首を縮めて外の庭を見下ろしていると、数十個の野菊が満開で庭を豪華にしている。すべてのものには時節があると思った。菊の花も時節があって真っ盛りだが、生まれ出る時節が来たのではないか？

秋は男の季節だと言う。だが私にはまだ季節が来ていなかったのか？歳月はどうやら希望を持てと言うだけで、密かに欺いて去っていくのか……！欺かれ、欺かれながら時間は無情に流れて行くだけだ。いつでも人間は欺かれながら時間について流れていく。夏は眠れないほど暑く、むしろ冬の方が良い、と言いながら冬が来ることだけを待っていた。だが、まだ冬が来る前に凍り付く体と心……美しい内蔵山にも行ってみることも出来ず、その恍惚とした紅葉はすべて散り散りばらばらに、土に空中にと飛んで行き、土になってしまったのか……？また、人生も土になるのだが、木の葉はどうなるのか……風が吹き雪が降り雨が降れば、眼に見えるすべてのものは壊れるのだが……更に時間が流れ行き、永遠の土地と土を見渡すと、灰色の土地がすべてのものを染め天地が灰色になる。希望も持つまい。待つことは喉が渇くことだ。

友人を３種類に区分

友人を３種類に区分することが出来る。[１]近づけてはいけない友人、[２]近づけてもいけないし、遠ざけてもいけない友人、[３]近づけるのが良い友人……。

◆近づけてはいけない友人
１）行いが悪いと思うとき、２）下らないことをいけずうずうしく喋り、どこででも取り仕切ろうとする欲張り、３）嘘を良くつく人、４）人に会えば利用しようとする詐欺漢、５）泥棒根性がある人、……等。
◆近づけてもいけないし、遠ざけてもいけない友人
１）短所が多いが、長所が特殊な人、２）正直だが愚鈍な人、３）他の人が出来ないことをやりうる人、４）約束を良く守ることはしないが、結果は確実な人、５）言葉が多いが才能がある人、……等。
◆近づけるのが良い友人
１）義理を知る人、２）私が学ぶことの出来る人物、３）万事が深重な人、４）人情が厚い人、５）正直で欲がない人、
例を挙げると、人によって考えが限りなく異なるが、私が考えると限りではこの程度に見ておけば良い。私は色々な人に会い、付き合ってみたが、友人によって損害を被ったことが多く、利益を得たことは特になかった。死んで行く人も生かしてやり、詐欺にも多くあって来た。それは私が真に純真で世間ずれしていない２０～３０代から、４０～５０代までも出くわしたことが多かった。それ故、私は窮していても他人に良いことをしたら満足だった。そうして生きて来てみると、相手がそうでないことが分かり、恩恵と言うものは受けたことを忘れてしまい、更に欲を起こすだけの人が多いことが分かった。過去の経験により、友人が多い事を良いことだと考えないようになった。一人でも、真実の友人が本当に友人なのだ。

髪を染める人達

女房に、国際市場に行くなら髪を染める薬を買ってきてくれと頼む。国産は「フェミリ」と言う薬で、８３号は若い女性にぴったりだが、年をとった人は８４号が褐色、８５号が濃い栗色だそうだ。１缶 2,000 ウォンだと言う。１回使用すると１缶全部使う。だが今まで使用したクリムトンという日本製染色薬は１缶 7,000 ウォンだが３回使えると言う。7,000 ウォンを３で割れば 2,400 ウォンだが１回使うと色の効果が国産よりずっとよいという。だが私は国産を愛用しようと思い使用してみると、８５号を使用した結果全く染色が上手く行かず、薬局に問い合わせると染色を２回すればよいという。言い換えると８４号で更に１回やってみなさいと言う話だ。そうすると２回やれば 4,000 ウォンにつくので、日本製よりずっと高いと言うことになる。日本製なら 2,400 ウォン

で済むのだ。それで今日国際市場に行って、フェミリを８４号と８５号を夫々１缶ずつ買い、缶市場へ行って日本製クリムトン５g を買って来てくれた。あれこれ使ってみて、これから決めようと言うことだ。

白髪を黒い色に染めると、２週間すると見たくもない白髪が生えてきて醜くなる。最近は若い人達は赤い髪、黄色い髪、白い髪、褐色の髪、様々な髪が市中を歩き回る。何年か前に米国に移民した友人が３年振りに故国を尋ねてきた。米国では髪の色が様々なので、若いか老人かを知ろうとすれば、皮膚の色で判断するとのことだ。それで私は心の中で、私が米国に行くとしたら５０歳程度に見られるのだ！と一人で微笑んだ。今はわが国でも髪が様々だから、私も若者になる自負心を持ちつつ一人笑ってみる。

カインの呪い

イブは禁断の木の実を摘んで食べた罪で妊娠し、子供を生まなくてはならなかったが、はじめに「カイン」を生み、続いて「アベル」を生んだ。

カインは農業をやり、アベルは羊を飼った。一度は、二人の兄弟が銘銘収穫した物を神様に捧げたが、神様はアベルが捧げた物を見て喜んだ半面、カインの物に目をくれもしなかった。怒りが込み上げたカインは、アベルと二人で野原に仕事に出掛けたときにアベルを殺してしまった。その結果カインは神様の怒りを買い、追い出されることになった。

カインも自分が仕出かした罪の途方もないことを悟り神様に言った。「私の罪は余りにも重く、到底償うことは出来ません。のみならず、今日この土地を追い出され放浪者になれば、途中で出会う者が私を殺してしまうでしょう。」

すると神様は「そんな心配はない。カインを殺す者は７倍の罪を受けることになるのだ。」と言って、出会う人が彼を殺さないように、彼に１枚の票を作って与えた。カインはエデンの東方のノドの地に行き生活したが、そこで結婚してイノクを生んだ。結局カインの呪いとは、人類最初の殺人者、兄弟を殺した者が受ける呪いのことだ。

以上は創世記の４章に出て来る話だが納得できない点が２つある。神様は初めにアダムを作り、彼の肋骨でイブを作り、アダムとイブがカインとアベルを生んだ。ところでアベルが死んだので、この地上にはアダム、イブ、カインの３人しかいないわけだ。そうすれば放浪者になったカインを誰が殺したのか……また、カインの妻として迎えた女性は何処から生まれたのか？分かったようで分からないことだ。

東の海から赤い太陽が浮かび上がる

東方の海の水平線から頭を突き出しながら浮かび上がるお日様は、綺麗に海の水で顔を洗い、赤い顔の可愛らしい微笑で私に挨拶する。昨日の元旦には遠く遠く対馬島が見え、わが韓国の国民に謹賀新年を言いながら、日本語で「明けましておめでとうございます」と言っているようだ。

私は部屋の隅で過ごしたが、対馬島を見ることが出来た。１月１日に年を更に１歳取ったが、無駄なことだ。

終日、送られて来た年賀状への返事を初め、新年の様々な整理をする面白さも普通とは違うよ……こんなことが生きている上でやるべきことだ。

牡丹雪が降るが

まだ雪が降っているのか？と窓を開けてみる。２階から見下ろすと当家の自動車が見えない。子供達が３,４人通り過ぎていく。大人も通り過ぎていく。雪がこんこんと降っている。牡丹雪だ。詳しく見ると当家の自動車は雪に完全の覆われて、車があるのかないのか見えないほどだ。傘を差して歩いている人はいない。雪が積もっていて、足首まで埋まるほどだ。

私は今日外出しないことにして良かったと思った。アウトルックが上手く行かなくて張り合いがなく面白くない。アウトルックで遊ぶことがどんなに面白いか分からない。色々な友人達のＩＤに笑わす話を送るのが面白い。絵や写真も送り、音楽も送れば、読む人が興味を持って聞きながら文章を読む。その面白さは味わった人にしかわからない。私は毎日そんな幼稚な生活をするのが好きだ。初等学校の子供と同じく天真爛漫なのが好きだ。そうすれば要らぬ心配はその中に埋められてしまう。そして病気までも近付いてこない。それで私は子供と同じくおもちゃが好きだ。私の机の上はおもちゃで一杯になっている。シャープペンシルだけでも各種類が何本かある。芯は 0.5 ミリから 0.7 ミリそして 0.9 ミリの色々だ。それだけでなく赤芯、青芯をアンダーラインを引くときに使用する。万年筆は勿論何本か並べておいてある。その万年筆も７本になる。インクは青インク色を使う。独、仏、米国製万年筆７本とシャープペンシルが無慮 300 万ウォン分だ。

私は食品には関心がない。小さなマッチ箱くらいの録音機でカセットを代用させて楽しんでいる。テープは最小型のマイクロテープで聴きながら散策している。だから私が使用している物はすべて最小型だ。カメラも最小型だ。シェーバーも最小型だ。それでコンピューターもノートブックを買おうとしたが、友人達が止める。文字が小さく弱弱しいので大きいのが良いと……まだ降っている牡丹雪は釜山の人に雪景を見せてくれる大きな贈り物だ。水のタンクに上がっていく水道水が凍りさえしなければ私にも大きな贈り物になるのだ。

雪が降るときは美しいが

雪景色は美しい。雪の花が人の眼を楽しませるからだ。その雪の花は生気のないすべてに木の枝に咲いて美しくしてくれる。その風景は冬の美しい風景だ。春、夏には花が満開となり、秋には紅葉の美しい風景がある。そして雪の花も漏らすことは出来ない。それだけでなく、雪の降る風景はどうだろうか。桜の花が雪が降るように落ちるのと対照される。だが、雪が降るときと雪の花が満開の風景は美しい反面、道に落ちて解けて汚くなることは後々が良くないので、冬の降雪は歓迎されたあとの陰口となるのがよくない。降るときの歓迎は地面に落ちた後の滑りやすさで考えが変わる。

毎年滑りやすい雪道に慣れた地方の人達には普通のことだが、釜山では雪道を除雪する計画が半世紀を過ぎ、雪道で転んで怪我する人達を見ると怖い気がして、家の中に閉じこもって外出しようとしない。釜山は零下 10.3 度の寒さだと言い、家々ごとに水道水が凍って苦労する家庭が多いと言う。この先４日間はこんな苦労をしなくては、零上になり解けることがないようなので、苦労はまだ残っている。我々元老人達はみんな風邪を引かないように用心してもらえば幸いだ。何よりも健康が第一だから……。

日差しと残雪

冷たい風が強く吹き、手がかじかんでポケットに入れるようになるので、凍った地面で滑ると大変なことになるから、滑らないようにと震えながら道を通り過ぎて行く人達が見える。半世紀振りの大雪が降り滑りやすいのが問題だ。

釜山は他所よりも平地が少ない地形だ。丘と山が多く、自転車にも乗れない

特殊な路地がある。それで雪が降れば滑り易い所が多い。それに海辺だから海風が強く吹き体感温度はもっと寒い所だ。道端には雪が積もり、解けた所は汚くぐちゃぐちゃだ。駐車している自動車は日差しのある側は雪が解けるので構わないが、我が家の車はまだ残雪に覆われている。前の家は日差しが当たって雪が早く解け、我が家は陰になって雪が解けずにいる。度外れに寒く、雪が降り風が吹く一時が過ぎれば、冬が過ぎたような後処理に心が急かれる。１８日までの間に気温が上がるというので、その日を待つ心は、子供が正月を待つのよりももっと待ち遠しい。

先ず第一に屋上に上がる水道水が解けて、安心して使用できるようになるのと、道を思い通りに歩き回れるようになることを待っているのだ。それから、しなければならないことがうんとある。２１日の早朝ミサに母親の煉ミサ（死者のミサ）があり、続いてソウルの子供達が旧正月と言って帰って来ることもある。それで、高速道路が滑り易ければ心配だ。列車を利用すればよいのだが切符はどうなることやら……？と心配してみる。

初三日の細い眉のような月は何処に行く

夜中に唸り吼える音に何度も眠りを覚まされ、何の音なのかと考えてみても分からないので、ボイラー室で事故があったと思って何回も出入りしたが、結局は風の音だと分かった。天気予報で暴風注意報を知らせている。正月の夜空には綺麗な初三日の糸のように細い眉を思わせる月が夢の国を連想させたが、天気の不順で、何処かへ行ってしまっていなくなったな……？

窓を開けてみると、道路面は夜中に雨が降って濡れていて、釜山港は黒い雲と色を合わせ真っ暗で、気分を憂鬱にさせるが、遠くに一列に並んでいる街路灯は住宅街の火影と調和している。釜山港の内港では動いている船は稀で、暴風注意報に怖じ気づいているようだ。だが小さなモーターボートが行ったり来たりしている。人が息をしなければ生きられない証拠のように、こんな小さなモーターボートでも動かなければ、釜山港は生きていられないことが分かるのだ。空の雲は東の方から風に押されて来ているのか、少しずつ色が濃くなっている。ふわふわした雲の塊が灰色の空を覆おうと、風に力をもっと出せと声を出し唸っている。果たして今日は天と地は人間達にどんな影響を当てえるのか……？動物と植物に慈悲を施す神様が、その結果、人間の生に良い影響を及ぼし、幸福を与えてくださるよう念願している。

悪夢

丘の道を越えて行こうとすると建築工事中だ。十余名の男女が工事場に丘を超えて行くのに、よりによって狭い階段をみんなで登って行っていた。私も一番後から登って行くのだが、下を振り返ってみると、百尺の崖で水気が滴り落ちている。万一その階段が崩れたら、落ちて即死する。後何歩かだけ登れば安心だが、その何歩を登るその場所が一番難しい山場だ。私一人だけ登って行けず、胸がどきどきしているのだが、目が覚めてみると夢だった。額は汗で濡れていて、安心する一方で心配だ。眠りから覚めて考えてみると、今まで夢で難しい夢を見ると難しいことが起きる。夢というものは正しいとは思えないが、特に今日は、大邱にいる友人が、作業所の事務室を開くからと言って私を招待し、今日行くのだが、駅に車で出迎えることになっている。小さなことにも用心に用心を重ねるのが私の信条なので、格別用心しなくてはならないと思いながら、今日私が大邱に行く用事がなかったなら、杜門不出（門を閉じて出ない）だと言って部屋の中に閉じこもっていなくてはならないと考え、晴れ晴れしない気持ちだ。更に今日は昨日より寒く、明日は今日より寒いと言うから、風邪が心配になる。怖い世の中に係わり合いになることも多い。更に全国的に雨や雪が降ると天気予報が言っているので、外出と言えばあり難くない。

幸福を祈る人達

仏様の前で、また天主様に、神様に、合掌して祈っている姿を見ると、その人は何をしてくれと祈っているのか知りたいことがある。だが、私が天主様に祈祷を差し上げるときは要望事項が多い。先ず私から、そして家族のため、恩人のため、友人のため、そして可哀想な人のため、社会のため……。

しかし、１週間に１度の日曜ミサでの祈祷と、毎日明け方の祈祷はまた異なる。毎日の祈祷は今日一日の要望を祈祷し、日曜ミサでの聖体を口に入れ祈祷するのとは重みが違う。しかし、欲心を持って多くのことを叶えてくれと言うのは、祈祷が叶えられないと言う。また、祈祷する者自身の幸福を叶えてもらおうと祈祷するのも効果が少ないと言う。祈祷は他人のために祈祷するのが祈祷の効果が大きいと言う。自分のためよりも家族のため祈祷し、恩人と友人のために祈祷し、そして可哀想な人のために祈祷するのが正しい祈祷ではないだ

ろうか……すべてのことは欲心を捨て、当を得た精神で本望を遂げるのが妥当なことだからだ。祈祷だけでなく、すべてのことは自分のためだけに気を奪われないことが、結局は幸福に至る結果を得やすい。

暗い夜道で

夜道を歩くときは色々神経を使うようになっている。後から付いてくる人を警戒しなくてはならないし、夜道で危険なことも注意しなければならない。険しいこの世の中では安心して生きて行けないので、ぼやっとして生きて行くことは大きな事故を招く危険性がある。

我が家の塀には外灯があり、柿の木が葉っぱの衣装を脱ぎ、外灯は侘しく夜道を照らしている。外灯はほのかな灯りを柿の木の実へと同じく道路にも投げている。零下から抜け出した初春の夜空は冷たい風が首に染み入り、この夜の寂しさを慰めている。海風はそよそよと、失恋した娘さんの心を凍てつかせ、その空は、上から見渡しながら、今夜は夜明かししてあなたを慰めるのだろうか……。

異色アルバイト

最近の大学生達は、金のある家の子供であってもそうでなくても、とにかくアルバイトをすることを少しも恥ずかしいとは思わない。男子学生でも女子学生でも関係なく、易しい仕事では茶房でのお運びさんだろうと店員になって、やらせてもらえる仕事をためらわずにやっている。妻の実家の孫の筋に当たる大学生が、軍隊に入隊しようと学校を休学し、父母にこっそりとサムゲタンの店でアルバイトをし 400 万ウォンを貯めた。そしてある日コンピューターのペンティアム３を、290 万ウォンを出して買い込んだ。どういう金でこんな高価な物を買ったのかと聞くと、アルバイトをして稼いだ金で買ったと言った。モニターが三星の１９インチで最高級品を買ったようだ。私は実に感心だと褒めてやった。ところでアルバイトは易しいことではない。それくらい忍耐心を必要とすることなので、若い時に鍛錬しておかなくてはならない。

今日外出して、外国為替銀行に用事があり、中部警察署前でバスを降りて用を片付けようと、外国為替銀行前の地下道に入って行こうとすると、道端に頭

が大きいミッキーマウスの人形と骸骨の人形が並んで立っていた。私が何気なく眺めて立っているわずか１０秒の間に、ミッキーマウスの頭が左右に動く。私はそんな装置になっているのだと思って下のほうを見ると、女子学生の脚でストッキングを履いていて、その横の骸骨のズボンはジーパンを履いていて男物の靴をはいた男子学生だった。大学生のアルバイトだな、と初めは哀れだと思ったが、みんながするアルバイトなので当然だとはいえ、今日のような寒い日に震えながら立っているのは可哀想だった。去年の夏には地下道を歩いていると、どんな商品の宣伝なのか人が大勢集まっていて、２人の女子学生がビニールで体にぴったりひっついた衣装を着て、その行事に活動していたが、酷暑にそんな衣装を着せてアルバイトをさせる業者は不適当だった。賃金も良いのだろうが、アルバイトでこんな行き過ぎた苦労をさせる異様さはひどいものだと思った。人間が出来る程度の仕事をさせるアルバイトが良いようだ。

幸福な人達

『乞食と飴売りは一生職業を変えない』と言う言葉がある。飴売りと言えば、昔は馬鹿でかい鋏を持って声を出して歩き回ると、幼児達が家から古いゴム靴を持って飛び出して来る。ゴム靴を１つ受け取ると、左手に持った刃物を飴に当て、右手の鋏で切る。そうして指より薄い飴を一切れ切り離してくれる。すると子供達は、もう少し頂戴とねだる。もっとやるかやらないかは飴売りの気持ち次第だ。そこで、もう少し切ってやると子供達は飴売りが好きになる。行列している子供達は次の回も同じく飴を買うから、飴屋の楽しがる顔は幸福な表情だ。大きくて価値のある古物は、飴を沢山やっても何十倍の高い価格で売れる面白味が飴売りにはある。

楽に生きる人生は乞食だと言うから、遊んで人から物を貰って食べて生きる身分は、第三者から見るときは可哀想に見えるが、乞食自身は楽しいことかも知れない。貧しい半乞食の巣窟では、集まれば自慢話でもしながら生きることがその人達の生き甲斐だ。自分が優れていると言う感じだ。それだから飴売りと乞食は面白く幸福な人生だということかも知れない。そんな底辺で生きている人生は、それなりに人生を幸福に生きて行くことも出来ることが分かる。底辺を抜け出した、一階層上の庶民層では、集まれば政治の話、他人のしていることを中傷する話が多い。聞いてみるとそのような話もあるが、聞き辛い話も多い。「蜀犬吠日」と言う言葉も同じだ。

昔、中国の蜀（四川省）の国は土地が四方を高い山で取り囲まれていて、雲

と霧が多いせいで、一年中真昼でも太陽を見ることが難しかった。それ故、いつか太陽が現れると犬たちが吠え立てると言う言葉が「蜀犬吠日」だ。見識が狭い人が卓越した言行を見ると理解できないので、疑わしく思って非難し、攻撃的なことを言うのだ。世界で最も富んだ国がスエーデンだ。だが国民の自殺者が世界で最も多いと言う。そうかと思うと、世界で最も貧しい国がバングラディッシュだというが、世界で最も自殺者が少ないということは、何もなくても幸福を感じながら生きていることが分かる。

春雨の降る夜に

　青鶴洞市場前を通る市内バスの窓から、青鶴洞郵便局前の通りから来る町営バスが見える。６番町営バスならいいのだが……と思いながら、聖堂前で 88-1 の市内バスを降りた。春雨が降っている。私が６番バスを待っていると町営バスが私の前で止まった。だが町営バスは６番でなく７番だった。７番バスは太宗台に行く道を通るが、高神大学の方を回っていく町営バスなので一度も乗ってみたことがない。

　今、時間は夜１０時なので、トンチャン薬局前で降りればよい６番バスは既に途絶えていたので、ご苦労様と 88-1 のバスを降りて、仕方なくタクシーを捕まえなくてはと雨に打たれながらタクシーを捕まえようと気を取られていると、バーバリコートは雨にびっしょり濡れて、名前の通りのレインコートになってしまった。ただし、頭に被った中折れ帽子が、名前の通り中折れになったという話ではない。やっと１台のタクシーを捕まえることが出来た。どちらに行きますか？と言う運転手に、船員学校へ行く道を行けというと、はい、と言うので道を良く知っていると思ったら、タクシーは右回転しなくてはならない道を通り過ぎて洞事務所前まで来ていた。私は、違うよ、もう一度車を引き返してテヨン薬局から左回転しなくては、と言うと、回そうとするが何処でも回すことが出来ない。Uターンをする所に来て回転し、再び三和技工社の前に来て回そうとすると警察の車が駄目だと言うので、もう少し行って回って我が家の前まで来ることが出来た。タクシー運転手が殊勝に、お客さんすみません、と謝るのだ。最近タクシー運転手はいつでも自分の失敗を認めまいとして大声を出すが、この人は多分代理運転の初心者のようだ、と一人で思いながら降りた。

　今日の旅行は明け方４時 50 分に家を出て日帰りの強行軍だった。更に永登浦駅で２時間以上をアイスクリームを食べながら時間待ちをした上に、暗い夜に列車に乗るのは、外の景色を見ながら乗るのとは違う。つまり、バスで市内を行くのと地下鉄に乗って行くのとの違いだ。

私は眠る前にコンピューターを一度開けてみてから眠ると言う習慣が付いている。先ず文章を書き、舎廊房から釜山そして炉辺は見なくてはならず、アウトルックを開いてみる。マンチョンさんの文、次にイボンさんの文で晋州の総会公告を知り、イボンさんが披露するとのことだが、既に掲示板に上げていたな、と思いながら、アウトルックで初等４年の一番下の孫からの、ソウルに来たが直ぐに帰ったのか……と言う文に返事も送り、そのほかに一言書いて眠りにつく。

私も６０億人中の１人だ

1999 年に世界の人口が６０億に達したと言う。「世界年鑑」（The World Almanac）によると、その中約 11 億 6500 万人はイスラム教、10 億 3000 万人はローマカトリック教、７億 6200 万人はヒンドゥー教、3 億 5400 万人は仏教、3 億 1600 万人はプロテスタント教、2 億 1400 万人は正教会信者だと言う。

世界人口の３分の２が宗教の信者と言うわけだ。だがわが国では宗教と言えば返答に窮するほど無神論者が多いようだ。わが国では、目に付く宗教は主に儒教と仏教が多いようで、次に多いのが改新教のように思われる。６０億分の１の私１人の人生なんか蟻１匹の生命の価値しかないと思うと甚だ惨めさを感じる。

夕食の食卓で空腹に便乗して、夕食では飲まない焼酎をコップ１杯かっきり飲んで、コンピューターを開いていると喉が渇く。冷たい水を１杯飲む。世の中に水の味以上に美味しいものはない。言いたいことが自ずと出て来る。これもやはり衆生の一分子の欲望を充足させるものだ。地球が小さくなったのか？人が多くなったのか？世の中が何十年か後には超満員になって足の踏み場がなくなれば我々は何処に行けばよいのだろうか？

春雪

春３月に大雪が降り、この冬に一時車も通れない大雪で大変な苦労をした市民達は、今は雪だと言えば恐怖心が先立つと言っている。そして春となり安堵の息をついている市民は、また降る大雪に驚き、強風まで吹くので世の中がひっくり返るのかと思った。

遂に啓蟄が過ぎ春色が満ち満ちた野と山は、春の花が散在し、庭園にも椿の花が満開となった。今までボイラー温室で死なずに冬眠していた花々は応接室に出てきて、色とりどりの花が満開で室内を装飾している。キンギアナム、デンドロビウムなどの蘭は黄色い花、赤い花がのどかだ。

そして香りもまた春の香りが一杯に満ち、家族から可愛がられている。多分、一昨日の４日に娘が河東へ行った時のことだが、帰ろうとしたが大雪で心配になり、釜山でも雪が沢山降っているのかと電話が掛かってきたとき、釜山は雪が降っていなかった。帰りがけには自動車運転を用心しろとしっかりと頼みもした。沢山降った春雪も記憶に残る事件だ。ありふれていないことはすべてが事件だ。婿が帰る途中で病気にかかり、自動車の運転も娘が交代してやった様子だ。

今日人生が終わるのではなく

私は何をしても、煩わしいとしょっちゅう放り出すことがある。だが直ぐに後悔し、再び収拾しながらこの性質を改めようとする。私が生きている限りどれだけ生きようと、この性質でひどく心を痛めながら生きなくてはならないのか？しかし、几帳面に静かに再び始めればよい結果をもたらし、大事なことが達成される。一つ一つ良く手入れしておけば、いつかは貴重なものになりうる。

人間関係も同じだ。我々が１ヶ月に１回しか会わないと言っても、人を大切に思い、情け深く生きていくことで、結んでおいた人情が限りなく続くだろう。互いに自分を主として生きて行くのは人間だから人情だ。ある物を市場で売ろうとするとき、高く売る物はそれだけ良い物だ。すべて価値がある物は高い値段だと見ればよい。『安いものは粗末な餅』と言う言葉もある。

友人も同じだ。友人が多いことが優れていると思っている人がいるが、そんなことはない。人間らしい人間と付き合わなくてはならない。そうすれば人間らしくない人間を敬遠するようになる。人間が生きるとしたらどれだけ生きるのか、そんなことが分かるのか……だが私の人生が終わることもないので、ありったけの力を出して終わりまで熱心に生きようと、忍耐心を持って周囲の環境に調和してみようかな……。

死んだのか……生きているのか……分からなくて

久し振りに電話を掛けてみた。彼の奥さんが私の声を聞いてすぐ分かって懐かしそうに返事する。先ず私が事情があって長い間電話も出来なかったと謝って、近況を聞くと意外にもまだ生きていた。半月前に病院に入院しているときには何日も生きられないようだったが人間の命は丈夫で長持ちするようだ。退院して家で寝ていると言うことだった。寝ていても起き上がってご飯を食べているそうで幸いなことだ。

だが半身がすべて麻痺していて自由にならず、耳は聞こえるので話は分かるのだが、口は役に立たないのだ。電話も受けるのが難しいとのことだ。半月前には人事不省で病院の入院室を騒がせていた。こんなときにはどうすれば病人の助けになるのかと考えてみる。

死ぬことが分かっていていた病人が生きていることだけでも幸いなことではあるが、死ぬことよりも悪い場合にはもっと悲しいことではないかと思って。わが元老坊の会員だったが、そのまま活動も出来ずに最後の道を歩いているが、その道は遠くはないと思うと胸が痛むことだ。生きている間なりとも苦しむことなく生き給え。

銅銭と銀銭

湯船から首だけ出して私はこんなことを考えている。幼い頃、１銭は銅銭で、５銭と１０銭は銀銭だった。銀で作ったものではないが銀色だからだ。銭の真ん中は丸い穴が開いている。そして葉銭と言うのは銭の真ん中に四角の穴が開いていて、２枚で１銭と見なされた。

韓末時にはわが国の銭は葉銭だった。当時の米１叺が７円５０銭だったが、巡査（巡警）の月給も７円５０銭だった。家族が何人であっても１ヶ月に１叺の米を食べれば、おかずだとかその他の生活費はどのように解決しろと言うことか……当時もそんな具合に市民の背中を殴って食べて生きて行けと言うのだ。

不正というものはいつも政府から作り出されるものだろうなぁ。その証拠に銭の価値が時代によって途方もなく差がある。最近は銅銭というのは１０ウォンの銅銭と、それから１００ウォンの銀銭でないものはすべて銅銭という。バスカードがなく、銅銭を使用するとき、そしてコーヒーを買うときは銅銭が便利だ。銅銭の銭入れ(巾着）をズボンに入れて歩き回ると重たいし、触感が良くない。

しかし習慣になった後ではそれをズボンに入れなければ心細くなる。そうし

て玄関の鍵まで入れるようになると、その銅銭入れが私には貴重なものになった。バスカードをすべて使ってしまって充填しようと思うと地下鉄まで行かなくてはならない。仕方なく銅線を使うようになり、その重たい銭入れが軽くなってよい。そうこうするうちに銅銭が品切れになった。仕方なく地下鉄に行って充填した。

時間が鉄砲玉のようだな

今日は朝から名簿手帳を整理し、プリントし、本を作ったのだが、既に夕方６時になっていた。仕事をすれば時間が早く過ぎるのは言うまでもないが、鉄砲玉のように時間が速い。朝飯を食べる時間、昼飯を食べる時間以外は他のことはしていない。

しかし朝から今日はこの仕事をしようと決心していたので気持ちがすっきりする。今からは、この笑わせる話を一つ書き上げれば、大きな大の字になって眠ることも出来る。休む時間だ。

ところで机の上のガラス板に朝からひびが入っていたが、ガラスの中央にまでひびが広がった。私がガラスに下に電話番号だとか備忘を挟んでおくのが思考の塊だった。使わなくなった腰紐を三角に切って、四隅とそして中間にも支えを作って、メモ紙を押し込んでおき必要なときに見るのだが、その空間から思考が生まれるのだと思っている。ガラス屋を呼んで新しく作ってくれと言わなくてはならない。幾ら言っても、言っても１～２万ウォンはくれと言うだろう……これも手のわざなんだって。終日一人でぐずぐずやって、やっと名簿手帳一つということか……。

こんなに能率の上がらないことはまたとないことだ。こうやって、やっと暮らせるほどの稼ぎになるだろうか～冬は行き春が来て既に夏が来たようだ。暑くてどうにもならない。私の部屋のエアコンにでも連結しておかなくては、と考えるのも私がせっかちだと言うことなのか？

ソロモンの栄華

ソロモンはダビデの息子でイスラエル王国の第３代王だ。彼は王位に上がるや卓越した智恵と巧妙な政治手腕を発揮して民心を得る一方、周囲の諸国を征

服してイスラエルは類例のない国力と平和を享受することになった。
　ソロモンは即位４年目に父王の遺志を奉じ大作業に着手した。即ち神殿の建造だった。建築に動員された人員が３万、資材運搬に７万、石工８万、工事監督の官吏３千３百だったから、その規模を十分に推量できる。
　この建築は７年かかって完成し、内部は純金で装飾した。神殿の竣工に続いて祭祀を行ったが、この時神様に捧げた牛が２万２千頭、羊１２万匹、また１４日間の祝宴を催した。
　神殿に続いて今度は自分の宮殿を建造するが、これもまた豪華を極めたもので、玉座は全部象牙で作り、階段は６つに分かれ各階段ごとに一対の黄金獅子を備え付け、黄金の盾５００個で宮殿を装飾した。甚だしくは食器に至るまで銀は一切使わず、金だけで作った。
　次第に傲慢になったソロモンは神様の意思に反して異邦人の女子を妾としたが、その妃は総勢７００人、妾は３００人だった。異邦人の女人が王を取り囲み宮殿を占有した。これに由来して国論が分裂し、各地に反乱が起こり、国が乱れる間に、この世の中でまたとない栄華を享受したソロモン王は帝位４０年目に世を去った。

牡丹の季節

　昨日の朝外出しながら牡丹の木を見ると、小さい鶏卵の大きさの蕾が出ていた。濃い赤色の蕾が１０個程度、そして白色が４個はっきり目に付く。去年白色の木を私が間違って切ってしまって家内から叱られた。それで白色の花はもう見られないだろうと思っていた。ところが白色が生まれたのでとても嬉しい。白い牡丹の花は少しばかり貴重だと聞いたので、その白色の花が生きていて安心する。
　それから外出して夕方帰ってきて牡丹の木を見ると、花がぱっと咲いて赤い色が１１個、白色が４輪、私の手の平よりももっと大きくぱっと咲いている。ところで今朝庭に出てみると夜の間にその花がそれこそ花中王だ。昨日の２倍は大きかった。やはり牡丹というものは花の中で最も大きく威勢良く堂々としているのに比し、寿命は余りにも短い命だ。人情深く短い生命と細く長い生命があれば、どちらを選ぶかと言う言葉もあるように、私はどちらを選ぼうかと考えるときがあった。牡丹のように花中王として短い生命で名前を上げて、人生を終えるか……と言う考えで生きてみようと……。
　だが一方、細く長い人生もよいものだと考えるとき、その性格に応じて肯定

する価値のあることもある。数日でもこの牡丹の生命を褒め称え、その短い期間に、数百年の寿命を持つ役に立つことを全部遂行する人生なら、細く長い歳月を生きて行く人生より優位に立つと見なければならないのだ。

完